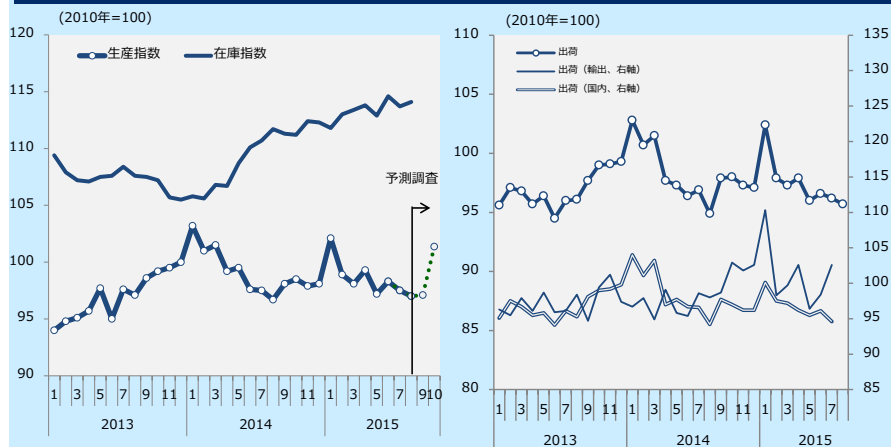


日本：鉱工業生産指数（2015年8月）

MRI Daily Economic Points
September 30, 2015

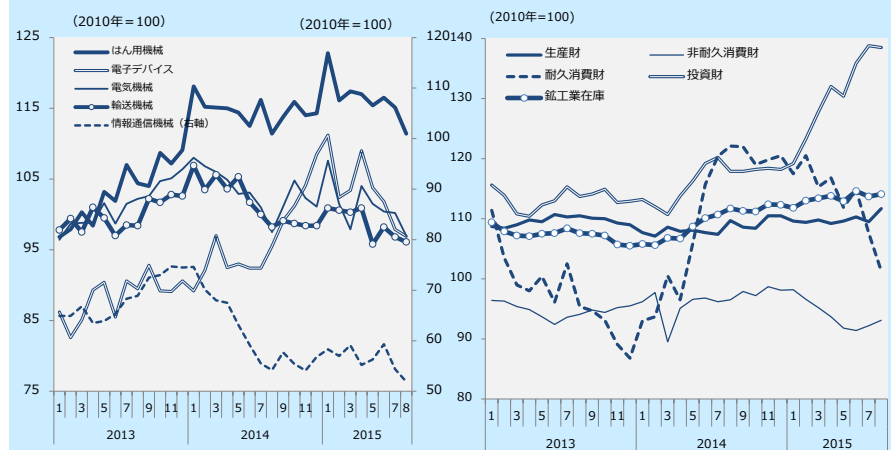
図表 生産・在庫指数／出荷指数



注：いずれも季節調整値

資料：経済産業省「鉱工業指数」

図表 業種別の生産指数／財別在庫の推移



注：いずれも季節調整値

資料：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2015年8月の結果

- 2015年8月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲0.5%と、前月同▲0.8%低下した後、2カ月連続で低下。出荷指数も同▲0.5%と、前月同▲0.4%低下した後、2カ月連続で低下した。先月の時点では、8月の生産は+2.8%上昇の見込みだったこともあり、ネガティブサプライズとなった。
 - 8月の生産の業種別内訳をみると、はん用機械(同▲3.2%)、電子デバイス(同▲1.0%)、電気機械(同▲3.2%)、情報通信機械(同▲4.6%)、輸送機械(同▲0.7%)と、今月も主要業種で軒並み生産が低下した。外需ウエイの高い品目での下落が目立っており、輸出の不振が影響した可能性が高い。
 - 在庫指数は前月比+0.4%と2ヶ月振りに上昇した。改正オフロード法(※)適用前の在庫積み増しなどを背景に、投資財、はん用機械を中心に引き続き在庫は高い水準にあるが、消費財では、耐久消費財を中心に在庫水準は大きく減少している。
- (※) ブルドーザやコンバイン等特殊自動車の排ガスの規制を定めた法律。平成26年より窒素酸化物を9割削減する規制強化を行っており、定格出力に応じて平成26年10月、平成27年10月、平成28年10月から、新しい規制の適用時期に経過措置を設けている。
- 製造工業生産予測調査では、9月は前月比+0.1%、10月は同+4.4%を予測している。予測どおりに生産が行われた場合でも、7-9月期の生産は前期比▲1.1%の減産となる。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、消費や設備投資の回復、米国向け輸出の堅調を背景に持ち直しつつあったが、15年入り後はアジア経済の減速の影響などから、弱い動きが続いている。
- 輸出の減少が生産低下の主因となっているが、海外経済の不安定化を受け、国内向けの出荷も年初以降弱含んで推移している。
- 今回の結果を踏まえれば7-9月期の実質GDPは、前期比年率▲1.2%減少した4-6月期に続いて、弱含む可能性が出てきた。その後は、雇用・所得環境の改善による内需の回復持続などを背景に持ち直すとするが、世界経済の先行き次第では、輸出の低迷やそれに伴う生産の落ち込みが長期化しかねず、先行きのリスクは高まっている。